

經 濟 学 部

經 濟 学 科

經 濟 学 部

履修の手引と手続

I 授業科目について

経済学部経済学科における授業科目は、基本科目、専門科目（第一分野）、関連科目（第二分野）からなる。その他、教員志望者のための教職に関する専門科目や教科に関する専門科目等の自由科目がある。

II 授業科目の単位と認定

本学では単位制が採用されている。単位制とは、一つ一つの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験その他の方法により学習評価をしたうえで、その単位を認定する制度である。

単位認定の評価は、S・A・B・Cにより単位を修得したことを示す。

III コース制について

経済学部では、「アジア・国際経済コース」、「企業・産業経済コース」、「金融・証券経済コース」、「地域・環境経済コース」、「データサイエンスコース」の5コースが設定されている。それぞれのコースにより、専門科目（第一分野）の選択必修科目が異なっている。所属コースの選択は、2年次の履修申請時に行う。

IV 進級条件について

各年次で進級に必要な最低単位数は、次の表に示すとおりである。

1年生 から 2年生へ	次の科目を含んで12単位 フレッシュマンセミナー……………4単位
2年生 から 3年生へ	次の科目を含んで52単位 フレッシュマンセミナー……………4単位 ソフォモアセミナー……………4単位 コミュニケーション基礎英語A・B・C・D（8単位中）……………4単位 （外国人留学生は日本語IA・IB・IC・ID）
3年生 から 4年生へ	次の科目を含んで84単位 フレッシュマンセミナー……………4単位 ソフォモアセミナー……………4単位 コミュニケーション基礎英語A・B・C・D（8単位中）……………4単位 （外国人留学生は日本語IA・IB・IC・ID） ゼミナールI……………4単位

注意：①上記の進級に必要な最低単位数には、一部の科目を除いて自由科目は含まない。

②授業科目によっては、履修者数の制限を行うことがある。

V 卒業について

卒業に必要な単位数は、次の表に示すとおりである。

ただし、自由科目は一部の科目を除いて卒業に必要な単位数には含まれない。

系 列		学部	経済学部
		学科	経済学科
		項目	単位数
基本 科目	フレッシュマンセミナー		4
	ソフォモアセミナー		4
	コミュニケーション基礎英語 A・B・C・D (外国人留学生は日本語 I A・I B・I C・I D)		8
	ゼミナール I・II		8
専門科目 (第一分野)		各コース指定の選択必修科目 26 単位を含み 52 単位	
関連科目 (第二分野)		52	
計		128	

2 年次以上に編入または転部した者については、次のとおりとする。

- (1) 2 年次編入または転部した者は、専門科目 (第一分野) または関連科目 (第二分野) から 4 単位を「フレッシュマンセミナー」の代替として修得しなければならない。
- (2) 3 年次編入または転部した者は、専門科目 (第一分野) または関連科目 (第二分野) から 4 単位を「フレッシュマンセミナー」の代替として修得し、「ソフォモアセミナー」の代替として、専門科目 (第一分野) から 4 単位を修得しなければならない。

VI 履修単位の上限について

各年次には、次のように年間履修単位の上限が決まっているので、留意して履修申請を行い進級、卒業に必要な単位数を満たすこと。

年 次	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
履修単位の上限	48 単位	44 単位	44 単位	44 単位

- (1) 自由科目は一部の科目を除いて履修上限単位数に含まない。
- (2) 編入生については履修上限単位数を超えて履修することを認めることがある。
- (3) JEAP 留学生（短期語学研修含む）の履修上限単位数については、別途定める。

Ⅶ 授業科目の学年配当と修得すべき単位数

1. 基本科目

基本科目はすべて必修科目である。なお、次のとおり履修の条件がある。

イ. 「ソフォモアセミナー」を履修するためには、「フレッシュマンセミナー」の単位を含み 12 単位以上修得していなければならない。

ロ. 「ゼミナールⅠ」を履修するためには、次の①②の条件を満たし、基本科目および専門科目（第一分野）か関連科目（第二分野）から 52 単位以上を修得していなければならない。（ただし、一部の科目を除いて自由科目は含まない）

① 「コミュニケーション基礎英語 A・B・C・D」の 4 科目 8 単位中 2 科目以上 4 単位以上を修得していること。外国人留学生は「日本語Ⅰ A・Ⅰ B・Ⅰ C・Ⅰ D」の 4 科目 8 単位中 2 科目以上 4 単位以上を修得していること。

② 「フレッシュマンセミナー」および「ソフォモアセミナー」を修得していること。

ハ. 「ゼミナールⅡ」を履修するためには、「ゼミナールⅠ」を修得していなければならない。また、「ゼミナールⅠ」と同じ担当教員を継続して履修しなければならない。

基 本 科 目

学科	系列	学年配当	授 業 科 目	単位数
経 済 学 科	基 本 科 目	1	フレッシュマンセミナー	4
			コミュニケーション基礎英語 A	2
			コミュニケーション基礎英語 B	2
			コミュニケーション基礎英語 C	2
			コミュニケーション基礎英語 D	2
		2	ソフォモアセミナー	4
		3	ゼミナール I	4
		4	ゼミナール II	4

(留学生)

学科	系列	学年配当	授 業 科 目	単位数	
経 済 学 科	基 本 科 目	1	フレッシュマンセミナー	4	
			日本語 I A	〔外国人留学生履修科目〕	2
			日本語 I B	〔外国人留学生履修科目〕	2
			日本語 I C	〔外国人留学生履修科目〕	2
			日本語 I D	〔外国人留学生履修科目〕	2
		2	ソフォモアセミナー	4	
		3	ゼミナール I	4	
		4	ゼミナール II	4	

2. 専門科目（第一分野）

注意事項

- (1) 専門科目（第一分野）から、52単位以上修得しなければならない。なお、学年配当が決まっているので、「Ⅵ 修得単位の上限について」を踏まえて各年次で計画的に履修し、「Ⅳ 進級条件について」「Ⅴ 卒業について」に留意し、所定の単位を修得すること。
- (2) 「データサイエンスの基礎」、 「A Iプログラミングの基礎」を履修するためには、「A Iと経済」の単位を修得しておかなければならない。また、「経済学のための統計入門Ⅰ・Ⅱ」などの統計学に関する科目を修得しておくことが望ましい。
- (3) 「社会科学におけるデータサイエンス」を履修するためには、「データサイエンスの基礎」、 「A Iプログラミングの基礎」を修得済みもしくはそれに相当したレベルの知識・スキルを持つことが望ましい。
- (4) 「金融データ分析」を履修するためには、「データサイエンスの基礎」を修得済みもしくはそれに相当したレベルの知識・スキルを持つことが望ましい。
- (5) 「定量的政策評価」を履修するためには、「A Iと経済」、 「ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、 「データサイエンスの基礎」を修得済みもしくはそれに相当したレベルの知識・スキルを持つことが望ましい。
- (6) 「ゲーム理論とA I」を履修するためには、「A Iと経済」、 「ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、 「A Iプログラミングの基礎」を修得済みもしくはそれに相当したレベルの知識・スキルを持つことが望ましい。
- (7) 「応用A Iプログラミング」を履修するためには、「A Iプログラミングの基礎」を修得済みもしくはそれに相当したレベルの知識・スキルを持つことが望ましい。
- (8) 専門科目（第一分野）はコースによって選択必修科目が異なるので、各コースに沿った履修計画をたてること。

経済学科専門科目（第一分野）

学科	系列	学年配当	授業科目	単位数	アジア・国際経済コース	企業・産業経済コース	金融・証券経済コース	地域・環境経済コース	データサイエンスコース	履修方法	
経済学科	専門科目（第一分野）	1	経済事情A	2			◎			◎印の科目から6単位以上選択必修 各コースの☆印の科目から20単位以上選択必修 ◎印，☆印の科目を含めて52単位以上選択必修	
			経済事情B	2			◎				
			経済学の考え方	2			◎				
			マクロ経済学入門	2			◎				
			ミクロ経済学入門	2			◎				
			経済学のための統計入門Ⅰ	2							
			経済学のための統計入門Ⅱ	2							☆
			経済の基礎数学Ⅰ	2							
			経済の基礎数学Ⅱ	2							
			経済史概論Ⅰ	2							
			経済史概論Ⅱ	2							
			経済学演習初級Ⅰ	2							
			経済学演習初級Ⅱ	2							
			金融入門Ⅰ	2							
			金融入門Ⅱ	2							
			日本の産業Ⅰ	2							
			日本の産業Ⅱ	2							
			地域と産業Ⅰ	2							
			地域と産業Ⅱ	2							
			技術と社会Ⅰ	2							
			技術と社会Ⅱ	2							
			経済学特論A	2							
			経済学特論B	2							
経済学特論C	2										
経済学特論D	2										
AIと経済	2							☆			

学科	系列	学年配当	授業科目	単位数	アジア・国際経済コース	企業・産業経済コース	金融・証券経済コース	地域・環境経済コース	データサイエンスコース	履修方法
経済学	専門科目（第一分野）	2	マクロ経済学Ⅰ	2	☆	☆	☆	☆	☆	
			マクロ経済学Ⅱ	2	☆	☆	☆	☆	☆	
			ミクロ経済学Ⅰ	2	☆	☆	☆	☆	☆	
			ミクロ経済学Ⅱ	2	☆	☆	☆	☆	☆	
			経済学演習中級Ⅰ	2						
			経済学演習中級Ⅱ	2						
			経済思想史Ⅰ	2						
			経済思想史Ⅱ	2						
			経済統計学Ⅰ	2					☆	
			経済統計学Ⅱ	2					☆	
			日本経済史Ⅰ	2						
			日本経済史Ⅱ	2						
			西洋経済史Ⅰ	2						
			西洋経済史Ⅱ	2						
			財政学Ⅰ	2				☆		
			財政学Ⅱ	2				☆		
			経済政策Ⅰ	2			☆	☆	☆	
			経済政策Ⅱ	2			☆	☆		
			金融論Ⅰ	2			☆			
			金融論Ⅱ	2			☆			
			金融機関論	2			☆			
			産業経済論Ⅰ	2		☆				
			産業経済論Ⅱ	2		☆				
			サービス経済論Ⅰ	2		☆				
			サービス経済論Ⅱ	2						
			現代企業論Ⅰ	2						
			現代企業論Ⅱ	2						
			開発経済学Ⅰ	2	☆	☆				
			開発経済学Ⅱ	2	☆	☆				
			日本経済論Ⅰ	2	☆	☆				

学科	系列	学年 配当	授 業 科 目	単 位 数	アジア・ 国際経済 コース	企業・ 産業経済 コース	金融・ 証券経済 コース	地域・ 環境経済 コース	デー タサイ エンス コース	履修方法
経 済 学 科	専 門 科 目 (第 一 分 野)	2	日本経済論Ⅱ	2	☆	☆				
			国際経済論Ⅰ	2	☆					
			国際経済論Ⅱ	2	☆					
			人口論Ⅰ	2	☆					
			人口論Ⅱ	2	☆					
			経済英書研究ⅠA	2						
			経済英書研究ⅠB	2						
			特殊講義Ⅰ	2				☆		
			特殊講義Ⅱ	2				☆	☆	
			特殊講義Ⅲ	2				☆	☆	
			特殊講義Ⅳ	2						
			データサイエンスの基礎	2						☆
		AIプログラミングの基礎	2						☆	
		3・4	景気変動論Ⅰ	2						
			景気変動論Ⅱ	2						
			経済哲学Ⅰ	2						
			経済哲学Ⅱ	2						
			経済学史Ⅰ	2						
			経済学史Ⅱ	2						
			計量経済学Ⅰ	2						☆
			計量経済学Ⅱ	2						☆
			地方財政Ⅰ	2						☆
			地方財政Ⅱ	2						☆
			公共経済学Ⅰ	2						☆
			公共経済学Ⅱ	2						☆
			国際比較財政Ⅰ	2						
			国際比較財政Ⅱ	2						
			財政金融政策Ⅰ	2					☆	
			財政金融政策Ⅱ	2					☆	☆
			証券経済論Ⅰ	2					☆	☆

学科	系列	学年配当	授業科目	単位数	アジア・国際経済コース	企業・産業経済コース	金融・証券経済コース	地域・環境経済コース	データサイエンスコース	履修方法
経済学	専門科目（第一分野）	3・4	証券経済論Ⅱ	2			☆			
			保険論Ⅰ	2			☆			
			保険論Ⅱ	2			☆			
			国際金融論Ⅰ	2			☆			
			国際金融論Ⅱ	2			☆			
			産業組織論Ⅰ	2		☆				
			産業組織論Ⅱ	2		☆				
			産業技術論Ⅰ	2						
			産業技術論Ⅱ	2						
			中小企業論Ⅰ	2		☆				
			中小企業論Ⅱ	2						
			福祉経済論Ⅰ	2						
			福祉経済論Ⅱ	2						
			環境経済論Ⅰ	2					☆	
			環境経済論Ⅱ	2					☆	
			流通経済論Ⅰ	2		☆				
			流通経済論Ⅱ	2		☆				
			消費経済論Ⅰ	2						
			消費経済論Ⅱ	2						
			交通経済論Ⅰ	2						
			交通経済論Ⅱ	2						
			農業経済論Ⅰ	2						
			農業経済論Ⅱ	2						
			都市経済論Ⅰ	2					☆	
			都市経済論Ⅱ	2					☆	
			現代経済論Ⅰ	2						
			現代経済論Ⅱ	2						
			労働経済論Ⅰ	2		☆				
			労働経済論Ⅱ	2		☆				
			アメリカ経済論Ⅰ	2	☆					

学科	系列	学年配当	授業科目	単位数	アジア・国際経済コース	企業・産業経済コース	金融・証券経済コース	地域・環境経済コース	データサイエンスコース	履修方法	
経済学	専門科目（第一分野）	3・4	アメリカ経済論Ⅱ	2	☆						
			アジア経済論Ⅰ	2	☆						
			アジア経済論Ⅱ	2	☆						
			ヨーロッパ経済論Ⅰ	2							
			ヨーロッパ経済論Ⅱ	2							
			地域研究Ⅰ	2	☆						
			地域研究Ⅱ	2	☆						
			地域研究Ⅲ	2							
			地域研究Ⅳ	2							
			経済地理学Ⅰ	2					☆		
			経済地理学Ⅱ	2					☆		
			多国籍企業論Ⅰ	2	☆	☆					
			多国籍企業論Ⅱ	2	☆	☆					
			経済英書研究Ⅱ A	2							
			経済英書研究Ⅱ B	2							
			経済英書研究Ⅲ A	2							
			経済英書研究Ⅲ B	2							
			経済学演習上級Ⅰ	2							
			経済学演習上級Ⅱ	2							
			社会科学におけるデータサイエンス	2							☆
			金融データ分析	2							☆
			定量的政策評価	2							☆
			ゲーム理論と AI	2							☆
			応用 AI プログラミング	2							☆

3. 関連科目（第二分野）

関連科目（第二分野）から、52単位以上修得しなければならない。なお、学年配当が決まっているので、「Ⅵ 履修単位の上限について」を踏まえて各年次で計画的に履修し、「Ⅳ 進級条件について」「Ⅴ 卒業について」を留意し、所定の単位を修得すること。

（1）外国語選択科目

「ドイツ語Ⅱ」、「フランス語Ⅱ」、「中国語Ⅱ」、「スペイン語Ⅱ」、「韓国語Ⅱ」、「ハンガリー語Ⅱ」、「チェコ語Ⅱ」、「ポーランド語Ⅱ」を履修するためには、それぞれⅡについてはⅠを修得しておくことが望ましい。

（2）インターンシップ科目

「インターンシップⅡ」を履修するためには、「インターンシップⅠ」を受講しなければならない。

（3）キャリア開発とコミュニケーション

「キャリア開発とコミュニケーションⅡ・Ⅲ」を履修するためには、それぞれⅡについてはⅠを、ⅢについてはⅡの単位を修得しておかなければならない。

（4）「サービスマネジメントⅡ・Ⅲ」を履修するためには、それぞれⅡについてはⅠを、ⅢについてはⅡの単位を修得しておかなければならない。

経済学科関連科目（第二分野）

学科	系列	学年配当	授 業 科 目	単位数
経 済 学 科	関 連 科 目 (第 二 分 野)	1	経営学Ⅰ	2
			経営学Ⅱ	2
			中級簿記Ⅰ	2
			中級簿記Ⅱ	2
			上級簿記Ⅰ	2
			上級簿記Ⅱ	2
			工業簿記Ⅰ	2
			工業簿記Ⅱ	2
			会計入門Ⅰ	2
			会計入門Ⅱ	2
			マーケティング論Ⅰ	2
			マーケティング論Ⅱ	2
			観光マネジメント論	2
			ホスピタリティマネジメント論	2

学科	系列	学年配当	授 業 科 目	単位数
経 済 学 科	関 連 科 目 (第 二 分 野)	1	自然災害の地学	2
			情報技術Ⅰ	2
			情報技術Ⅱ	2
			情報学特講Ⅰ	2
			情報学特講Ⅱ	2
			コンピュータ・リテラシーⅠ	2
			コンピュータ・リテラシーⅡ	2
			数値計算演習	2
			生涯スポーツ論	2
			スポーツ科学Ⅰ	2
			スポーツ科学Ⅱ	2
			基礎リテラシーⅠA	2
			基礎リテラシーⅠB	2
			教養演習初級Ⅰ	2
			教養演習初級Ⅱ	2
			実践プレゼンテーション	2
			社会教養基礎	2
			サービスラーニングⅠ	2
			地域ボランティア論	2
			国際ボランティア論	2
			公務キャリア特講Ⅰ	2
			公務キャリア特講Ⅱ	2
			資格英語ⅠA	2
			資格英語ⅠB	2
			資格英語ⅡA	2
			資格英語ⅡB	2
			資格英語ⅢA	2
			資格英語ⅢB	2
			資格英語ⅣA	2
			資格英語ⅣB	2
			Oral EnglishⅠA	2
			Oral EnglishⅠB	2

学科	系列	学年配当	授 業 科 目	単位数
経 済 学 科	関 連 科 目 (第 二 分 野)	1	English Communication I A	2
			English Communication I B	2
			Public Communication I A	2
			Public Communication I B	2
			留学英語 I A	2
			留学英語 I B	2
			英語集中トレーニング I A	4
			英語集中トレーニング I B	4
			教養英語 I A	2
			教養英語 I B	2
			海外英語研修	2
			ドイツ語 I A	2
			ドイツ語 I B	2
			フランス語 I A	2
			フランス語 I B	2
			外国語・文化研修 (ヨーロッパ)	4
			中国語 I A	2
			中国語 I B	2
			中国語集中トレーニング I A	4
			中国語集中トレーニング I B	4
			海外中国語研修	2
			スペイン語 I A	2
			スペイン語 I B	2
			海外スペイン語研修	2
			韓国語 I A	2
			韓国語 I B	2
			海外韓国語研修	2
ハンガリー語 I A	2			
ハンガリー語 I B	2			

学科	系列	学年配当	授 業 科 目	単位数
経 済 学 科	関 連 科 目 (第 二 分 野)	1	ポーランド語 I A	2
			ポーランド語 I B	2
			チェコ語 I A	2
			チェコ語 I B	2
			マレー語 I A	2
			マレー語 I B	2
			世界の中の日本 A	2
			世界の中の日本 B	2
			地域と大学	2
			女性人材開発論 A	2
			女性人材開発論 B	2
			グローバル社会と女性	2
			女性とダイバーシティ (女性の働き方)	2
			女性とキャリアデザイン (女性と企業)	2
			国際グローバル研修	2
			海外ビジネス研修 I	2
			海外ビジネス研修 II	2
			海外ビジネス研修 III	2
			海外ビジネス研修 IV	2
			文化研究 I	1
			文化研究 II	1
		自校史研究 (建学の精神と大学の理念)	2	
		日本文化史 I [外国人留学生履修科目]	2	
		日本文化史 II [外国人留学生履修科目]	2	
		日本事情 I [外国人留学生履修科目]	2	
		日本事情 II [外国人留学生履修科目]	2	
		2	経営史 I	2
			経営史 II	2
			経営管理論 I	2
			経営管理論 II	2
			経営組織論 I	2
			経営組織論 II	2
		財務諸表 I	2	

学科	系列	学年配当	授 業 科 目	単位数
経 済 学 科	関 連 科 目 (第 二 分 野)	2	財務諸表Ⅱ	2
			会計学Ⅰ	2
			会計学Ⅱ	2
			経営戦略論Ⅰ	2
			経営戦略論Ⅱ	2
			憲法Ⅰ	2
			憲法Ⅱ	2
			行政法Ⅰ	2
			行政法Ⅱ	2
			法人税法Ⅰ	2
			法人税法Ⅱ	2
			会社法Ⅰ	2
			会社法Ⅱ	2
			家族法Ⅰ	2
			家族法Ⅱ	2
			財産法Ⅰ	2
			財産法Ⅱ	2
			政治学概説Ⅰ	2
			政治学概説Ⅱ	2
			国際関係論Ⅰ	2
			国際関係論Ⅱ	2
			行政学Ⅰ	2
			行政学Ⅱ	2
			法学演習中級Ⅰ	2
			法学演習中級Ⅱ	2
			地理学(地誌を含む)Ⅰ	2
			地理学(地誌を含む)Ⅱ	2
			近世の都市史Ⅰ	2
			近世の都市史Ⅱ	2
			女性学概論	2
ジェンダー文化論	2			

学科	系列	学年配当	授 業 科 目	単位数
経 済 学 科	関 連 科 目 (第 二 分 野)	2	文化論Ⅰ	2
			文化論Ⅱ	2
			世界の文学 A	2
			世界の文学 B	2
			産業心理学Ⅰ	2
			産業心理学Ⅱ	2
			自然景観論Ⅰ	2
			自然景観論Ⅱ	2
			情報技術Ⅲ	2
			情報技術Ⅳ	2
			情報技術Ⅴ	2
			情報技術Ⅵ	2
			情報技術Ⅶ	2
			情報技術Ⅷ	2
			情報学特講Ⅲ	2
			情報学特講Ⅳ	2
			表計算ソフトによる数量分析	2
			IT 論Ⅰ	2
			IT 論Ⅱ	2
			スポーツ科学Ⅲ	2
			スポーツ科学Ⅳ	2
			教養演習中級Ⅰ	2
			教養演習中級Ⅱ	2
			キャリア開発とコミュニケーションⅠ	2
			社会教養Ⅰ	2
			社会教養Ⅱ	2
			インターンシップⅠ	2
			インターンシップⅡ	2
			サービスラーニングⅡ	2
			FP 論入門	2
FP 論初級	2			

学科	系列	学年配当	授 業 科 目	単位数
経 済 学 科	関 連 科 目 (第 二 分 野)	2	Oral English II A	2
			Oral English II B	2
			English Communication II A	2
			English Communication II B	2
			English Communication III A	2
			English Communication III B	2
			Public Communication II A	2
			Public Communication II B	2
			留学英語 II A	2
			留学英語 II B	2
			英語集中トレーニング II A	4
			英語集中トレーニング II B	4
			教養英語 II A	2
			教養英語 II B	2
			Advanced Academic English A	2
			Advanced Academic English B	2
			ドイツ語 II A	2
			ドイツ語 II B	2
			フランス語 II A	2
			フランス語 II B	2
			中国語 II A	2
			中国語 II B	2
			中国語集中トレーニング II A	4
			中国語集中トレーニング II B	4
			スペイン語 II A	2
			スペイン語 II B	2
			韓国語 II A	2
			韓国語 II B	2
			ハンガリー語 II A	2
			ハンガリー語 II B	2
			ポーランド語 II A	2

学科	系列	学年配当	授 業 科 目	単位数
経 済 学 科	関 連 科 目 (第 二 分 野)	3・4	論作文 A [外国人留学生履修科目]	2
			論作文 B [外国人留学生履修科目]	2
			日本語特殊演習 I A [外国人留学生履修科目]	2
			日本語特殊演習 I B [外国人留学生履修科目]	2
			日本語特殊演習 II A [外国人留学生履修科目]	2
			日本語特殊演習 II B [外国人留学生履修科目]	2
			日本語特殊演習 III A [外国人留学生履修科目]	2
			日本語特殊演習 III B [外国人留学生履修科目]	2
			日本語特殊演習 IV A [外国人留学生履修科目]	2
			日本語特殊演習 IV B [外国人留学生履修科目]	2
			日本語特殊演習 V A [外国人留学生履修科目]	2
			日本語特殊演習 V B [外国人留学生履修科目]	2
			日本語特殊演習 VI A [外国人留学生履修科目]	2
			日本語特殊演習 VI B [外国人留学生履修科目]	2

4. オールイングリッシュ科目

注意事項

- (1) オールイングリッシュ科目と対応する日本語授業科目は重複履修できない。
- (2) 「Seminar for Freshman」, 「Seminar for Sophomore」, 「Seminar I」, 「Seminar II」はそれぞれ「フレッシュマンセミナー」, 「ソフォモアセミナー」, 「ゼミナール I」, 「ゼミナール II」の代替科目として履修することができる。
- (3) 専門科目（第一分野）及び関連科目（第二分野）のオールイングリッシュ科目は対応する日本語授業科目の代替科目として履修することができる。

学科	系列	学年 配当	オールイングリッシュ科目	対応する日本語授業科目	単位数
経済学科	基本科目	1	Seminar for Freshman	フレッシュマンセミナー	4
		2	Seminar for Sophomore	ソフォモアセミナー	4
		3	Seminar I	ゼミナール I	4
		4	Seminar II	ゼミナール II	4

学科	系列	学年 配当	オールイングリッシュ科目	対応する日本語授業科目	単位数
経済学科	専門科目 (第一分野)	2	Financial Theory I	金融論 I	2
			Financial Theory II	金融論 II	2
		3・4	Area Studies I	地域研究 I	2
			Area Studies II	地域研究 II	2
	関連科目 (第二分野)	1	Japan in the World A	世界の中の日本 A	2
			Japan in the World B	世界の中の日本 B	2
		2	Public Administration I	行政学 I	2
			Public Administration II	行政学 II	2
			Business English I	ビジネス英語 I	2
			Business English II	ビジネス英語 II	2

5. 教職関連科目（自由科目）

教職関連科目は、学生の希望により選択履修できる。これらの科目は自由科目であり、一部の科目を除いて卒業に必要な単位数に算入されない。

詳細については、教育職員免許状取得のための課程の頁を参照のこと。

学科	系列	授 業 科 目	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次
経 済 学 科	自 由 科 目	教育学概論 A	2			
		教職論	2			
		生徒指導 (進路指導の理論及び方法を含む)		2		
		教育心理学		2		
		教育学概論 B		2		
		教育方法 (コンピュータ活用を含む)		2		
		教育史		2		
		道德教育の理論と指導法		2		
		教育課程論 (総合的な学習の時間の指導法を含む)		2		
		学校と図書館		2		
		ジェンダー・教育・ダイバーシティ		2		
		スチューデント・インターンシップ I		1		
		スチューデント・インターンシップ II		1		
		特別支援教育		2		
	特別活動論				2	
	教育相談 (カウンセリングを含む)				2	
	※社会科教育法 A				4	
	※社会科教育法 B				4	
	※公民科教育法 A				2	
	※公民科教育法 B				2	
	介護等体験実習 (事前及び事後指導を含む)				2	
	教職実践演習 (中・高)					2
	教育実習 I (事前及び事後指導を含む)					3
	教育実習 II					2

※印の科目は進級・卒業に必要な単位数（関連科目）に算入する

Ⅷ 授業科目の履修申請

各年次において履修しようとする授業科目は、学年初めの指定された期日に所定の方法（オリエンテーションで説明する）で履修申請をしなければならない。履修申請は、年間の受講計画をたて、**単位を修得する意思表示をする**学年初めの重要な手続きである。この履修申請を間違えたために、授業科目の履修ができなくなり、その結果進級はもとより、卒業ができなくなる場合もあるので、以下に掲げる注意事項を厳守して、誤りのないように履修申請をすること。

(1) 履修申請は、当該学部・学科の授業時間割表を参照し、曜日、時限、コマ・コード、授業科目名、開講期間、担当教員等を確認し申請を行なうこと。

* コマ・コードとは、授業時間割表に授業科目名等と共に記載されている番号で、その時限の授業科目の固有の番号である。

(2) 履修申請をした後は、授業科目および担当教員などの変更、追加、取消しなどは認められないので、申請前に授業時間割表と照合してもう一度確認するなど、細心の注意を払うこと。なお、履修照合日が設けられているので間違いなく登録されているかどうか必ず確認すること。

(3) 履修申請をしていない授業科目は受講しても単位は認められないので、授業科目の申請にあたっては進級や卒業に必要な単位の算定を慎重に行ない、修得単位数が不足しないように万全を期すこと。

(4) 同一時限に2つ以上の授業科目を履修することはできない。

(5) 単位を修得した授業科目は、再度履修することはできない。

(6) 指定された期日までに履修申請を行わない場合は、学業の意思なしとみなし、**退学を命ずる**（学則第69条）。

Ⅸ 正規の履修からはずれる場合

1. 再履修

履修申請をして単位が修得できなかった授業科目については、次年度において再履修することができる。なお、再履修のクラスのある授業科目は、原則として再履修クラスで受講すること。

2. 規定外履修

該当するクラスの授業時間以外のクラスで受講せざるを得ない場合は、必ず学部事務室に相談すること。ただし、1年次生の規定外履修は原則として認めない。

3. 他学部開講科目履修

理学部数学科で開講している「計算機入門Ⅰ」(2単位・1年次配当)、「コンピュータによる統計」(2単位・2年次配当)、「数式処理による解析」(2単位・2年次配当)を関連科目として受講することができる。ただし、受講するためには以下の条件のいずれかを満たすこととする。なお、履修希望者が5名を超える場合は5名を選考する。

- ①高等学校において「数学Ⅲ」を履修した者。
- ②大学入学共通テストにおいて「数学Ⅱ」,「数学Ⅱ・数学B」または「情報関係基礎」を受験し、平均以上の成績を修めた者。
- ③高等学校において「数学Ⅱ」,「数学B」を履修した者で、本学の入学試験で「数学」を受験した者。

X 試験について

1. 定期試験および臨時試験

- (1) 試験は、定期試験と臨時試験があり、定期試験は原則として学期末および学年末に行う。
- (2) いずれの授業科目も授業時数の3分の1以上欠席した場合には、原則として当該授業科目の受験資格を失う。ただし、病気又は、正当な理由による長期欠席の場合には、特別に考慮されることがある。
- (3) 試験時間割は掲示により連絡する。
- (4) 授業科目によっては論文(レポート)提出によって試験に代える場合がある。

2. 追 試 験

- (1) 追試験は、やむを得ない事情によって定期試験を受験できなかった者に対し、原則として学期末又は学年末に実施する。
- (2) 追試験を希望する者は、正当な事由を証明する書面をもって速やかに学部事務室に届け出ること。
- (3) 追試験は、成績通知書の当該科目にTの表示がなされた場合に限り受験することができる。
- (4) 追試験は、履修(再履修を含む)した年度に限り受験することができる。
- (5) 追試験を受験しようとする者は、「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

追試験の受験料は、1科目につき200円である。

3. 再 試 験

- (1) 再試験は、原則として学期末又は学年末に実施する。ただし、授業科目によっては再試験を行わない場合もある。
- (2) 定期試験の結果、不合格（この場合は、成績通知書の当該科目にFの表示がなされる）となった授業科目のある者は、当該授業科目の担当教員が再試験を行う場合、受験することができる。
- (3) 再試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。
- (4) 再試験の受験を許可された者は、「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

再試験の受験料は、1科目につき1,000円である。

4. 試験に関する注意

1. 通 則

- (1) 試験場内では、すべて監督者の指示に従わなければならない。
監督者の指示に従わない者には退場を命ずることがある。
- (2) 試験場内では、筆記用具・持込を許された資料以外のものはすべて監督者の指定する場所におかなければならない。資料等をむき出しのまま机の中に入れてはならない。
- (3) 持込許可が「全て可」であっても、電子機器の持ち込みは不可とする。
- (4) 受験者は、学生証を机上の見やすい場所に提示しておかなければならない。
- (5) 試験開始から20分を経過した後は入室・受験を認めない。
- (6) 試験開始後25分間は退場することができない。監督者が退場を命ずる場合はこの限りでない。
- (7) 受験者は、試験中監督者の許可を得ないで試験場を出てはならない。
- (8) 試験の行われる学期の授業料未納の者、授業時数の3分の1以上欠席した者は試験を受けることができない。受験資格のない者の答案は無効とする。
- (9) 病気・事故その他正当な事由によって受験できなかった者は、診断書・事故証明その他正当な事由を証明する書面を添えて遅滞なく学部事務室に届出なければならない。

2. 不正行為

試験における不正行為は厳禁とし、不正行為を行った受験生は厳正に処分する。不正行為に関する定めは本書「城西大学 学内試験等における不正行為の取り扱い指針」を参照すること。

XI 成績発表

- (1) 成績発表は、学部事務室において、本人に成績通知書を交付することによって行う。学部事務室の指示に従って、必ず交付を受けること。その際、学生証を提示すること。指定された期日以外には交付しない。なお、前期末試験、学年末試験の成績はweb上で開示する。
- (2) 成績評価は、下記XII GPAについての「GPの基準」を参照のこと。
- (3) 成績についての疑問、質問等は早急に学部事務室に問い合わせること。
- (4) 事故、病気等により指定日に成績通知書の交付を受けられない場合は、代理人を定め、成績通知書の交付を受けること。その場合は学生証を必要とする。

XII GPAについて

本学では、「GPA (Grade Point Average)」制度を導入している。以下に示すことを十分理解しておくこと。

1. GPAの意味

- (1) GPAの値とは、自分の成績を数値化したものである。学期毎や学年毎までのGPAや入学からの通算のGPAを比較することで、自らの学習成果の推移を知ることができる。
- (2) GPAの値には、T評価、F評価およびZ評価を受けた科目についても計算に組み入れられる。したがって、安易に考えて開講期間の半ばで授業参加をやめた場合などは低い値となる。

2. GPAの計算

「GPA」は、下記の基準に基づいて評価した成績のGP (Grade Point) に各科目の単位数を掛けて合計し、履修登録した科目の単位数の合計で割った1単位あたりのGP平均値 (Average) である。仮に、履修した科目の成績がすべて「S」評価の場合はGPAの数値は4になり、すべての成績が「C」の場合は1となる。

「GPの基準」

成績評価 (表示)	評価の基準 (点)	合否	GP
S	100 ~ 90	合格	4
A	89 ~ 80	合格	3
B	79 ~ 70	合格	2
C	69 ~ 60	合格	1
F	59 以下	不合格	0
T	追試験受験可	未受験 (不合格)	0
Z	失格	不合格	0

$$\text{GPA} = \frac{[\text{GP} \times \text{当該科目の単位数}] \text{の合計}}{\text{履修登録科目の単位数の合計 (T評価, F評価, Z評価科目を含む)}}$$

(注) 不合格となった科目を次年度以降に再履修して合格した場合には、成績は上書きされ、過去の不合格の成績は、GPA計算式に算入されない。

(注) GPA計算式に算入されない科目もある。

